

JaSST'14 Tokyo

クロージングパネル

テストエンジニアの育成による組織力・チーム力の向上
～現場が幸せになる育成とは？
また、エンジニア自身が成長するためには？～

宮崎大学 工学部 情報システム工学科

片山 徹郎

<kat@cs.miyazaki-u.ac.jp>

自己紹介

【略歴】

1996(平成8)年 3月 九州大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)を取得
1996(平成8)年 4月 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 助手
2000(平成12)年10月 宮崎大学工学部情報システム工学科 助教授
現在 准教授

【研究分野】

並行処理プログラムや組み込みシステムを対象としたテスト手法
プログラムの可視化

【主な著書】

テスト技術者交流会 訳:「ソフトウェアテスト 293 の鉄則」(共訳)日経BP社 2003.4

デザインウェブマガジン編集部編:「組み込みソフトウェア 開発スタートアップ」(共著)CQ出版社 2005.7

情報処理学会組み込みシステム研究会 監修:「組み込みソフトウェア開発技術 (組み込みシステム基礎技術全集)」(共著)CQ出版社 2011.2



自己紹介

【対外活動】

情報処理学会、電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会、各会員

組込みシステム技術に関するサマーワークショップ (SWEST) プログラム委員

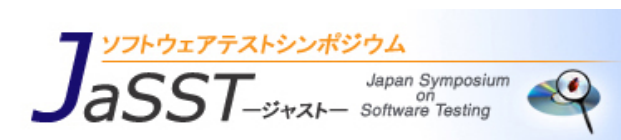
ソフトウェアテストシンポジウム(JaSST) 実行委員

NPO法人 ソフトウェアテスト技術振興協会(ASTER) 副理事長

テスト技術者資格認定(JSTQB: Japan Software Testing Qualifications Board) 技術委員会 委員

九州IT融合システム協議会(ES-Kyushu)幹事会 幹事

NPO法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム (QUEST) 理事



このパネルでのポジション

- いわゆる、大学の先生！
 - これから社会にエンジニアを送り出す立場として
 - 常に、若者相手の商売
 - 学生の成長が間近で見れます



自らのテストエンジニア育成への関わり方

- まず、言っておかないといけないこと

テストエンジニア、にこだわってるわけではない

- 学生のやりたいことを尊重
 - 本人の興味があることをやらないと、きっと楽しくない
 - 大学なので、自由な研究が可能
 - 本人が自分の結論と主張を持つことが大事だと考える
 - 本人が、成長を実感してもらうこと
- で、学生が、「テスト」に興味を持てば？
 - まずは、勉強させます！
 - 問題点や疑問点を探してもらいます



テストエンジニア育成で大事にしていること とその理由

- 学生のその後の人生のために、先生として何ができるか？
 - 大学は、学生にとって通過点でしかない
 - 疑問を実感したときに、どう対処するかの手段を学ぶ
 - 議論する力、質疑応答をする力を養う
 - 成果をまとめる力を学ぶ
- 学生の発想をつぶさない
 - こちらの考えを押し付けすぎない！
 - 本人が解決策を見つけるのがベスト
 - 学生同士で議論して解を見つけるのもOK！



テストエンジニア育成への問題意識や難しいこと、苦労していること

- 「テスト」に興味を持つ学生が少ない
 - 目が行くのは、設計やプログラミング、Web
- 興味の持たせ方が難しい
 - 学生が接する機会が少ない
 - ほとんどの大学で、「テスト」は「ソフトウェア工学」の講義の一部
 - つまり、1コマor 2コマ/15コマ ... 1コマは90分
 - 「演習」はプログラミングがメイン ... 作ったら終わり
 - 学部の座学のカリキュラムは、
現状、大学でほとんど変わらない

